

農民衆内閣三代の官選機関員

官房長官	内閣が支出した政策推進費（億円）	年度ごとの返納額（円）
菅義偉（第2次安倍内閣）	86.8	2012年度 174,383 13年度 75,884 14年度 28,902 15年度 30,626 16年度 11,313 17年度 13,262 18年度 43,268 19年度 27,396
加藤勝信（菅内閣）	12	20年度 136,371
松野博一（岸田内閣）	21.2	21年度 199,174 22年度 174,462 23年度

※2012年12月～今年6月末までの分を算計

公金私物化 深まる疑惑

官房機密書

能取扱が不適で大體の「ヤクセ」と謂われる大蔵省監査課課長（監査官）の支出額が、1年連續して毎年1億3000万円台でそれがつづくといふ。33日、本紙が機密文書係に入手した資料をわかつた。監査課監査の毎年の予算額は「1億3000万円」とある。一般的の予算と異なり事前に権限が付められてこませよ。監査政策は「財政の運営に状況に応じて機動的に使用する」と説いてゐるが、實際には毎年ほとんど使い切つておらず、きわめて不自然な形です。+監査課田

卷之三

自民3内閣

洛陽圖書卷之三

四

卷之三

加賀の官署

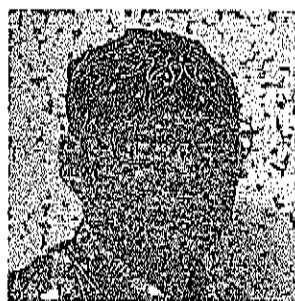
第一回 気の255年

3月支用急增返納計91萬円

会計検査院から求められる
以上がなに問題である。但
収費不要を隠遁のみのじした
公金の私物化が強く疑われ
ます。

情報公開し私物化なへせ

官房機密費の10年半



神戸学院大学教授 上脇 博之さんに聞く

第2次安倍内閣が成立して以降の10年半で、官房機密費（報償）から公政権のどんな活動が見えてくるのか。官房機密費の情報公開を求める裁判の原告で、2018年に最高裁で文書の一部開示を勝ち取った神戸学院大学の上脇博之教授に聞きました。

この10年半で、官房機密費のうち官房長官一人だけが扱う「政策推進費」が機密費の9割を占めています。要するに收支を官邸の職員が確認しているお金が9割にも満たないことがあります。

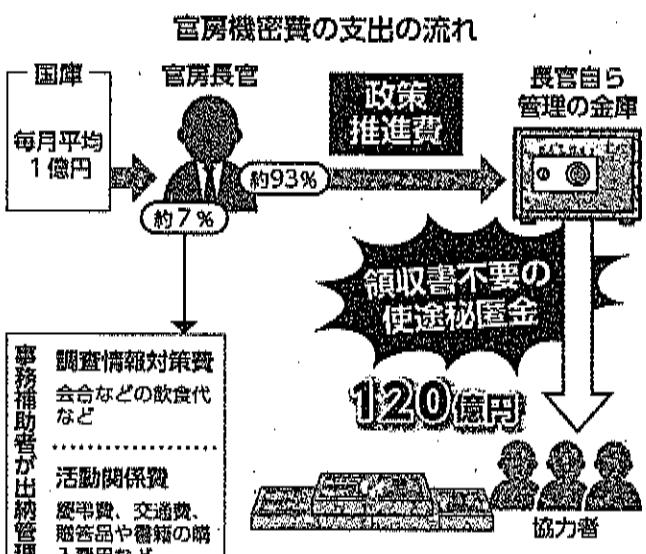
また毎年、官房機密費の予算枠ギリギリまで支出しています。本当に必要性があると判断したところよりも、「とにかく予算をできるだけ使い切る」と考えていることがあります。「とにかく予算をできるだけ使い切る」と思われるのはなぜですか。持つ逃げ

に近くものです。

官房機密費は「当面の任務状況に応じて機動的に使用する」経費だと政府は説明していますが、実際に

官房機密費の支出の仕方をみてみると、歴代の国民元老が、公金を私物化し、違法な国外支出をしていく疑いを強く抱かせます。いつも税金の使い方をなくすには、やはり情報公開しかない。

情報公開で入手した「内閣官房機密費納管理簿」。じつじつと年間の支出総額が12億3,000万円台でややっています。（左から）加藤勝信・前澤博一・松野博一の各氏が官房機密費担当のもの



※金額は 6月末時点

で、河井克行元法相に服役中、自民党議員の自宅から送金と同額の自民党幹部4人から毎月6700万円の現金を受け取った疑いを示すメモが出てきたと「中國新聞」が報じました。メモの中には「ながらり00」との記載がありますとみられています。これは当時、官房機密費だった官房長官前首相から100万円が支出されたことが示すとみられています。

前田の政治団体から河井元法相側に500万円の支出があったとの記載が、政治資金収支報告書などとあります。私は、この資金の原質が官房機密費の可能性あると考えていました。官房機密費の支出の仕方はみてみると、歴代の国民元老が、公金を私物化し、違法な国外支出をしていく疑いを強く抱かせます。いつも税金の使い方をなくすには、やはり情報公開しかない。

仮に官房機密費の用途がすぐに公開できないとして、何年か後には公開しても、検証ができるよう工夫すべき